

題目	堺市における居住地の都心へのアクセス性と LRT 計画への関心度に関するアンケート分析		
氏名	倉田 悠司・納富 英郎 (学籍番号 06V055・06V100)	指導教員	吉川 耕司

1. 研究の背景と目的

堺市では、東西交通軸の強化によって独自性の高い首都圏の形成を図るため、2008 年 4 月に「東西鉄道整備基本計画案」を発表し、本格的に LRT の新規整備事業を進めようとしていた。

こうした状況を受け、LRT にかかわる住民意識に加え、整備前後の市民の交通行動の変化を深めるための事前調査とも位置づけたアンケート調査が、堺市全域を対象に 3 大学 7 研究室の合同で実施された。

本研究では、アンケート調査により得られた、回答者の通勤・通学及び日常的な交通行動について、居住地の位置による中心市街地や最寄り駅へのアクセス性の違いが行き先・最寄り駅・頻度・利用交通手段といった交通行動に与える影響を分析した。

2. 研究の特徴

アクセス性を表す指標としては、経路距離、時間距離、料金抵抗を同時に算出した。一般的には地域研究における「距離」の計測には、やむを得ず直線距離が用いられることが多いが、今回は最短距離を探索行って経路距離を求めており、距離抵抗値としての精度を高めることができています。さらに物理的な距離だけでなく時間距離や料金も調査・算定して、交通行動に影響を与える移動抵抗要因を多面的に探ろうとしていることが本研究の特徴である。

また、アクセス先である「中心市街地」には、堺市中心部だけでなく、大阪中心も設定することとした。すなわち、LRT の敷設に関わる研究ではあるものの、敷設が予定されているエリアへのアクセス性だけでなく、買い物等は難波地区に行くことも多いといった実態を反映させた。これにより、より現実性の高い検討を行えるようにしている。

3. アンケート調査の概要

調査期間は平成 20 年 9 月 13～17 日の 5 日間であり、LRT 沿線には約 2 倍の密度となるよう配布を行ったところ、配布世帯数は 8,000 世帯となった。世帯抽出率は 2.247 通の回答があり、回収率は 9.36%となった。ただし、構成人数が 3 名に満たない世帯も当然含まれているため、回収率に関しては過小な値ということになる。なお、配布の利便性を考慮し、配布対象の町丁目をあらかじめ抽出している。

4. 分析のためのデータ整備

分析に先だって、必要なデータの整備を行った。

- ① アンケート回答者の最寄り駅の設定： アンケート回答者の最寄り駅を正確に記入し、特定するためには、堺市内の鉄道路線・駅名を検索し、把握する必要がある。
- ② 各駅の集計： ①の作業で得られた回答者の最寄り駅ごとに、駅ごとの集計をあらかじめ行っておく。

5. 大阪市・堺市中心部へのアクセス性の算定

(1) 交通行動への着目の意義

通勤や買物のための交通行動については、大阪市や堺市の都心へのアクセス性が重要な要因となると考えられる。そしてこのことは、アンケートの対象である LRT に関しても、計画案に関する関心の度合いとして現れるであろう。

そこで、2つの市それぞれの中心部への、時間、距離、料金について駅ごとに算出を行い、最寄り駅属性としてデータ化している。

(2) 利用する鉄道と「中心部」に関する条件設定

都心部に向かう交通機関について、鉄道を利用することが妥当なケースについては、平日朝 8 時の普通電車を利用することとして、時間・距離・料金を算出した。普通電車と定めたのは、快速・急行電車が停車する駅と停車しない駅との差を出さないようにするためである。なお、これらの計測には Yahoo!鉄道検索ソフトを使用し、(乗り換えや待ち時間を含まず)乗車時間、乗車距離のみを用いている。

また、堺市中心部とは南海本線堺駅または南海高野線堺東駅を指すこととする。さらに大阪市中心部とは、南海各線を利用した場合は難波駅、その他の場合は天王寺駅を指すこととする。さらに、堺市中心部へ乗り換えて移動するケースでは堺東駅が選ばれることとする。これは堺東駅周辺に市役所が所在しているためである。

6. アクセス性と LRT 計画への関心度の関係の分析

アンケートの回答者について、居住地の最寄り駅から堺市中心部への所要時間(5分ごとに集約)と、LRT に対する関心の度合いのクロス集計を行い、その関係を調べた。

図 1 はそれぞれ、堺市中心部、大阪市中心部への所要時間ごとに集計した、回答の選択肢の構成比である。

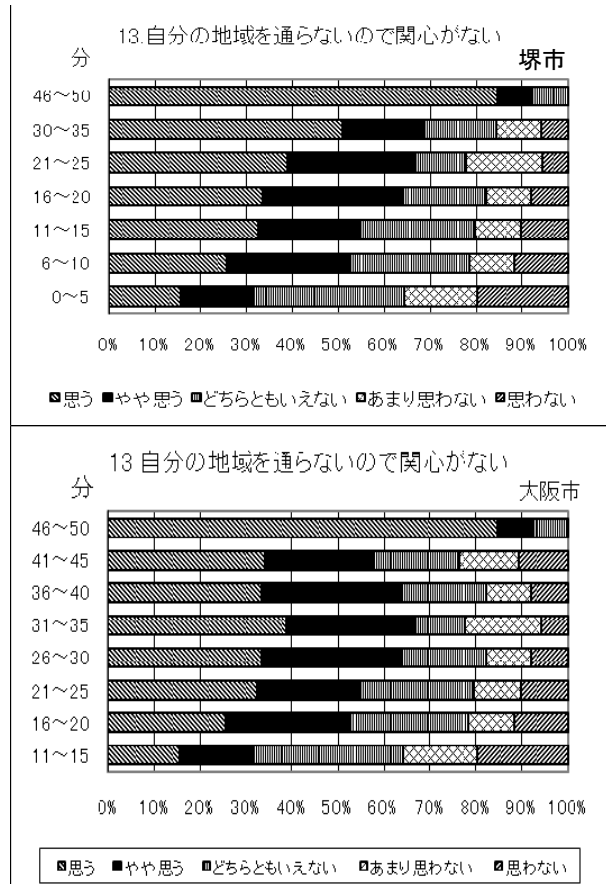


図 1 中心部への所要時間と LRT に対する関心の度合い

7. おわりに

本研究では、最寄り駅からの大阪市・堺市の中心部への時間抵抗・料金抵抗の大小が、LRT 計画への関心の度合いに大きく影響していることが明らかになった。